

農業の新しい技術

No. 606 (平成 21 年 9 月)

分類コード 02-05

熊 本 県 農 林 水 産 部

トルコギキョウの電照栽培で冬春期に計画出荷！

農業研究センター 農産園芸研究所花き研究室

担当者：工藤陽史

研究のねらい

本県のトルコギキョウ生産は、阿蘇地域を中心とした準高冷地から温暖な平坦・島嶼地域まで気候条件を活かしたりレー栽培による周年生産が行われ、生産量全国 2 位の産地である。

しかし、12～2 月出荷作型では開花遅延や蕾が壊死するブラスチングが発生しやすく、3～4 月出荷作型では生育・開花が著しく遅延するなど、冬春期には計画的な出荷が行われていない。そこで、電照栽培による冬春期の栽培技術を確立する。

研究の成果

1. 9 月中旬定植の電照栽培は、頂花の着花節および発蕾日への影響は小さいが、発蕾から開花までの日数は無電照栽培より短くなり、ブラスチング発生率が軽減する（表 1、表 2）。
2. 10 月中旬定植の電照栽培は、無電照栽培より頂花の着花節が低く、発蕾および開花が早く、採花期は、1 ヶ月程前進する（表 3、表 4）。

以上の結果から、トルコギキョウの電照栽培は、冬期出荷作型ではブラスチングの発生を軽減し、春期出荷作型では採花期を前進させる。

普及上の留意点

1. 試験は、電照を暗期中断（22 時～2 時）の 4 時間で 75W の白熱灯で行う。
2. 電照は、定植直後から実施する。

[具体的データ]

表1 9月中旬定植の電照栽培が頂花の着花節数、発蕾日および開花日に及ぼす影響

品種	電照処理	平均	平均	頂花 ^z	発蕾から	頂花の
		発蕾日	開花日	着花節	開花までの日数	ブラスティング発生率
		(月/日)	(月/日)	(節)	(日)	(%)
‘ロジーナローズピンク’	なし	10/23	12/31	8.7	69.8	13.8
	あり	10/22	12/24	8.9	62.4	0
	有意性	-	-	NS	**	-
‘ピッコロサスノー’	なし	10/26	1/4	9.5	71.3	60.6
	あり	10/23	12/25	9.4	63.8	17.2
	有意性	-	-	NS	*	-

^z頂花の着花節までの本葉展開節数

^yF検定 ** 1%水準で有意 * 5%水準で有意 NS 有意差なし

表2 9月中旬定植の電照栽培が頂花から4次小花までの花蕾に及ぼす影響

品種	電照処理	平均 ^z	正常	奇形	ブラスティング	合計	ブラスティング
		採花日	花蕾数	小花数	蕾数	花蕾数	蕾発生率
		(月/日)	(個)	(個)	(個)	(個)	(%)
‘ロジーナローズピンク’	なし	1/17	2.0	0.1	3.9	6.0	65.0
	あり	1/13	2.8	0.1	2.5	5.4	46.3
	有意性 ^y	-	**	NS	**	NS	-
‘ピッコロサスノー’	なし	1/26	0.6	0	6.3	6.9	91.3
	あり	1/24	2.2	0	4.2	6.4	65.6
	有意性 ^y	-	**	NS	**	NS	-

^z採花は、頂花摘花後の2次小花の開花揃いを切り花適期とした

^yF検定 ** 1%水準で有意 * 5%水準で有意 NS 有意差なし

表3 10月中旬定植の電照栽培が頂花の着花節数、発蕾日および開花日に及ぼす影響

品種	電照処理	頂花		
		着花節数 ^z (節)	平均発蕾日	平均開花日
‘ロジーナローズピンク’	なし	19.2	2月22日	4月24日
	あり	14.6	1月14日	3月21日
‘まほろばイエロー’	なし	18.2	2月4日	4月3日
	あり	13.3	12月15日	2月26日

^z頂花の着花節までの本葉展開節数

表4 切り花品質に及ぼす影響

品種	電照処理	平均 ^z	切花長	切花重	茎径	主茎長	有効	有効
		採花日	(cm)	(g)	(mm)	(cm)	分枝数 ^y	花蕾数 ^x
							(本)	(個)
‘ロジーナローズピンク’	なし	5月5日	107.3	91.4	4.7	81.7	4.1	8.7
	あり	4月4日	84.9	61.3	4.2	60.3	2.9	4.8
‘まほろばイエロー’	なし	4月20日	96.0	70.6	4.4	61.9	2.1	7.1
	あり	3月20日	77.6	59.8	4.6	41.6	1.8	5.7

^z採花は、頂花摘花後の小花3~4輪開花時の切り花適期とした

^y主茎から発生した15mm以上の正常花蕾をつけた1次分枝数(除去枝は含まない)

^x15mm以上に発達した頂花を除く花蕾数